



8月 カサラ便り

カナダで味噌？！

お母さんは韓国人でお父さんはカナダ人！

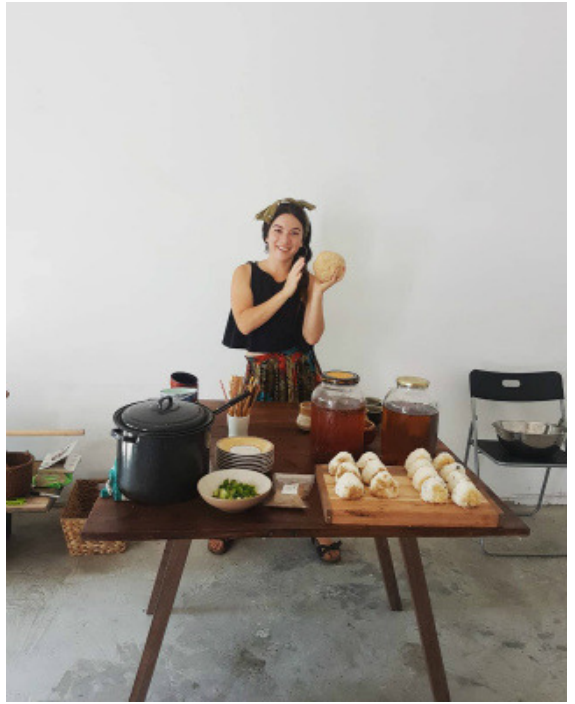
日本生まれで8才まで日本に在住。そのあとカナダで育ち、学校と大学はカナダで通う。モニカは一年前に、日本のルーツを探りに日本に戻ってきました。関西で自然農を勉強し2018年の冬は酒蔵で働いていました。一年でいろんな技を学びました。今はカサラファームと一緒に活動してくれています。特技は発酵です！醤油や味噌、甘酒や発酵ドリンクやヨーグルトなどありとあらゆる発酵物を作ります！

そのモニカがカナダで味噌ワークショップを開きました。

カナダでは日本の味噌が一般的に知られるようになって、普通に買える所も多くなっています。特に健康的で美味しいというイメージがある！その理由で味噌が流行りだしています。

今回味噌ワークショップを2回やりました。参加者はみんなカナダに住んでいる人で、人種は様々でした。特に日系人や、フーディストが集まりました。

みんな、興味しんしんで驚きました！海外でこんなに味噌に興味を持つ人がいるとは！一人は5時間も移動して来たそうです！子連れの家族も来てくれて子供までいろんな質問をしてくれました。仕込み終わったらみんな2kgの味噌を持ち帰り、家でねかしています。今回は大成功で次回は醤油仕込みのワークショップにも挑戦してみたいです！



味噌玉



みんなで大豆を潰して米麴と混ぜる。



参加してくれた皆さん

アメリカの若者まで米づくりに目覚めた？！

8月の10日にアメリカのメイン州で稲作に挑戦されている若者が日本にリサーチの旅に来られました。彼らは合鴨農法を挑戦されていて今年で5年目です。アメリカもお米を生産されていますがほとんどが温暖なカルフォルニアで大規模で栽培されています。飛行機で種モミを播種したり、大型コンバインで一期に何 ha も刈りこむスタイルです。メイン州は北海道なみの寒さなので稲作は無理だと言う常識でした。冬が長くて、初霜が9月にあるそうです。そんな場所でお米づくりに挑戦しています。もちろん田んぼなんて無いので彼らは機械で地面を整地して田んぼを作りました。土地にある高い所に池を掘って溜め水を田んぼに流し込んでいます。雨量は日本ほどではないが、雨水に頼っています。なので雨が降らない時期は給水に困ったりします。メイン州の土は粘土質で濡れると、どろどろで乾けば固い！そのせいでメイン州は他の穀物もあまり栽培しないです。水持ちの良い土なので稲は栽培できるかも！早生の品種さえ栽培すれば、この短い夏のあいだにお米ができるんじゃないか？！そして、植えてみたら見事に実ったと！しかも合鴨を利用して除草もしている！地元メイン州で出来たお米大人気ですぐ売れるそうです。値段も日本より何倍の価格でも売れるそうです。



合鴨農法を勉強しに福岡で合鴨農法をされている古野隆さんの農園に見学に行きました。古野さんは世界的に有名で無農薬栽培の会議に良く出席されています。合鴨農法についての本を複数も書いておられます。そんな古野さんの農業を見学するのはものすごく良い体験でした。アメリカから来られた二人にとってここまでレベルの高い農業者と会話ができるのも貴重な体験だと思います。



カサラファームイベント

ハナププ式珈琲セレモニー

「ハナププ」とは「なんとかなるさ」という意味のインドネシア・スマトラ島の方言です。

ハナププ珈琲はスマトラ島の代々受け継がれている珈琲農園で育てられた“スペシャリティ珈琲生豆”を現地買付し、正当な価値で引き取っています。スマトラ島でコーヒー農家さんと活動をする三浦隆典さんが今回カサラファームに来てセレモニーをしてくれる事になりました。

そのセレモニーは珈琲を焙煎する音や香りを感じ、みんなで楽器を奏でます。焙煎し終わった珈琲をみんなで味わい、ちょっとした珈琲の話もします。

石窯でピザも焼きます！
～自家製カサラファームピザ～
1000円



珈琲セレモニーはハートマネー

予約は090-4202-4345
地域おこし協力隊 桑畑才文

9月11日

ピザ焼き始め
17時から～

珈琲セレモニー
19時スタート



カサラファーム イベント

みんなで草木染めを楽しもう会

9月30日

9時30分
スタート

染めたいものを持って
来てカサラファームで
染めてみよう！

草木を一緒に集めに
行き、その後煮出します。

来る前に染めたいものを牛乳か豆乳に
一晩つけてから持って来て下さい。
天然素材じゃないと染まりません。

参加費：カサラファームの自家製 ~石釜ピザ~
ワンオーダーお願いします(1000円)



場所：カサラファーム (江府町卸机1154)

予約：090-4202-4345 / kasaraorganic@gmail.com

地域おこし協力隊 桑畑才文